

## 実践記録（小5・理科）

### 1 ねらい

自分の考えに友達のを付け足したり、自他の考えを比べたりすることで、新たな自分の考えをもつことができるようにする。

### 2 手立て

自分の考えと友達のを共有できる場を設定し、自分のワークシート(予想マップ)に考えを書き足したり、共通点を見付けたりする活動を行う。自分の予想マップに友達の意見を付け足すときは青色で書き加えたり、同じ予想を見付けた時には自分の意見の近くに正の字を書いたりすることで、情報を分類、整理させる。

### 3 実践の様子

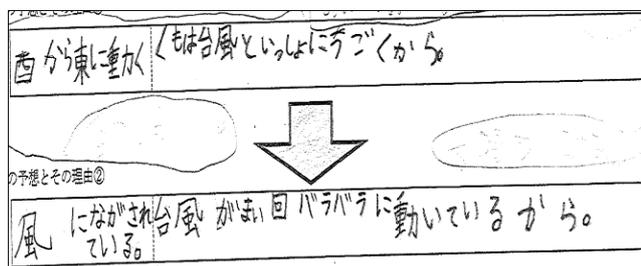
「ふしぎエンドレス」を視聴し、台風の動きと天気の変化について、自分の予想を立てさせた。その際、手がかりとなる映像のみを視聴し、番組内に登場する児童が予想を発表する場面は見せないようにした。また、考えを記述する際は、予想マップを活用させた。予想マップは、「台風の動き」と「天気の変化」のように視点を分けて記述させるワークシートである。台風の動きについての児童の予想は、「西から東へ動く」「南から北へ動く」「動き方はばらばらである」と、雲の動きについて学習した内容と関連させたものが多かった。

次に、互いの予想マップを共有し、自分の予想マップに友達の意見を書き足す活動を行った。自分の予想と違うものは、色を変えて書き足したり、似ている考えがあれば、正の字を書いて数を表したりさせた。書いた色が違うことで、友達の考えが多く書き足されたこと、正の字を書いたことで自分と同じ予想を立てた友達が多くいたことが一目でわかるようにした。

友達と考えを共有する活動後に、改めて台風の動きと天気の変化について、予想とその理由を考えさせた。記述内容から、友達の考えを受けて予想とその理由の両方が変わった児童、予想は変わらないが理由に友達の考えを付け足した児童、予想も理由も変わらないという児童が見られた。ある児童は、台風は「西から東に動く」と予想し、「雲は台風と一緒に動くから」と理由付けをしていたが、考えを共有する活動を通して、台風は「風に流されている」と予想し、「台風は毎回ばらばらに動いているから」と理由付けるなど、自分の考えに変化が見られた。【資料1】

学級全体で予想を共有した後、学校放送番組を視聴し、番組内に登場する児童の予想を視聴させた。番組内の児童から

は、「サッカーのボールのように回転するとカーブがかかり、台風の動きに影響してくるのではないか」という予想が出されたが、学級の児童からは「確かにボールに回転がかかると曲がる！」という反応が出るなど、活動を通して新たな考えを進んで取り入れる児童の姿が見られた。



【資料1】予想とその理由に変化が見られた児童の記述

### 4 成果と課題

- 予想マップを使い、考えを共有したことで、自分の考えに付け足したり、考えの根拠を導き出したりすることができた。
- 予想マップの使い方に慣れておらず、関係のない情報を書き加える児童もいた。予想マップを使った情報共有の方法について、改善が必要である。